



手稲^{しゅうえん}山の終焉と西尾さん

(元手稲鉱山勤務) 西尾^{きだひろ}貞敏氏



昭和 46 年に手稲鉱山を閉じて、早 40 年近くの歳月を経た。この歴史的な山の残務を担当された西尾貞敏氏のご講演は、実に要を得た軽快な語りで、時間を忘れる思いがした。

明治 20 年代星置の住人鳥谷部弥平治による金鉱石の発見から、昭和 10 年三菱の手に渡るまでの、金山をめぐる数々のドラマの如き移り変わりを伝えて頂いた。

「産金報国」戦争一色につき進む三菱の隆盛も、やがて資源の枯渇化へ向かい終戦を迎えた。この激動のさ中、三菱の経営陣、技術屋、鉱山労務者（朝鮮の人たちも）等々が織り成す人間もようも語られた気がする。

戦後の「財閥解体」「独占禁止法」と時代転換の中で、三菱の影響力の強さを知らされた。太平鉱業、荒川鉱業、千歳鉱山と姿を変えながら、手稲山の採鉱に昔日の夢をおい続けた日々は、つい先日のようにも思われる。なぜなら、合併前の手稲町（村）民こぞつての願いでもあったはずだから……。

その他として、項目のみ掲げて謝意とした。

- ・大雪や支笏の自然保護パトロールとして今なお北海道のレンジャー協議会の一員でもある。「乙女の滝」近くに自生する「ウリの木」についても紹介された。
- ・坑内での温泉出現、道新幹線の札幌へ乗り入れと手稲山、等々夢物語もあった。
- ・手稲西小「鉱山の部屋」展示資料も昨年解説され、既に CD に保存済みである。

西尾貞敏氏の講話を聴講して

西尾さんの「手稲鉱山よもやま話」はとても面白く、すっかり聞き入ってしまいました。中でも「金 1g はマッチ棒の先っぽほど。そして 1g の金が 4.5 畳から 6 畳ぐらいの金箔になる！」のお話には驚きました。つい先日も、某テレビ局のクイズ番組の中で、名古屋城のシャチホコと金閣寺ではどちらで金が多く使われているか？ という問題がありました。シャチホコが 44kg、金閣寺 20kg で答えはシャチホコということになります。

みなさんも正解されたことと思います。

10 数年前、青森の竜飛岬行った時のこと、みやげ物屋で「青函トンネルの貫通石」というものが売られていました。なんでも青森側と函館側から掘り進めたトンネルの最後の 5 メートルのカベを爆破した時のものだそうです。ご利益がありそうだと思います。小石 1 個が 800 円、家族や友人の顔を思い浮かべながら、800×10 などとお金の計算をしていると、地元に住む夫婦が「あなたが立っている地面はトンネルの土石で埋め立てられているのよ」とありがたい一言。当然、足元の小石 10 数個をみやげに持ち帰りました。

(高木)

次回例会のお知らせ

次回(8月13日)は、三浦宏氏(元北海道開発局土現担当官)の講話「国道5号、旧国道づくり秘話」と平木重雄氏の会員発表「曙、稲穂、拓北農兵隊ほか」を予定しております。

速報

9月13日に石狩、当別、江別方面の視察・調査巡回ツアーを研究部で企画中です。詳細は次号で……

手 稲 鉱 山 に 生 き て

（稲穂金山活性化推進委員・稲穂在住） 三国 勲 氏

【提出資料】▽15 歳で手稲鉱山を去るまでの自分史と国内外のできごと年表
▽三国家の始祖・寅吉氏の経歴、明治 14 年の地券▽昭和 14 年の選鉱場航空写真、奉安殿建立写真▽強力ブルドーザー▽昭和 20 年の従業員社宅での主婦部隊の奉仕活動写真など。

「父親が鉱石の搬出業務に従事していたので、滝見町の社宅で生まれました。物心ついたころが終戦前後で、軽川の石油タンクが炎上し、共同防空壕に避難したことや姉が墨で塗りつぶした教科書を使っていたのを覚えています。

疲弊した時代ですから、親は苦労したはずですが、こどもにとっては山あり、川ありで楽しい場所でした。ズックの手作りカバンを背負って通学する品疎ないでたちだったものの、ひもじい思いをした記憶はありません。

高く積み上げたズリ山にもよく登ったし、戦時中に勤労奉仕の女性たちがアメリカ憎しとうさ晴らしのため、ルーズベルトに似た岩に石を投げつけた——と聞いたこともありました。見張りといわれた詰め所が 4 か所ありましたが、なぜか、選鉱場を見ることができました。あるとき、国道で進駐軍の戦車が止まりました。珍しくて見に行くと、出てきた兵隊の際立った肌の色にびっくりし、きっと、殺されると思いました。

戦後まもなく、鉱員によるストが勃発しました。削岩夫の待遇改善要求だったと記憶していますが、約 500 人が 21 日間闘ったものの、得るものはなにもありませんでした。小学校に入学するころから、鉱山はさびれていきます。社宅も空家が目立つようになりました。サンマータイムと大真面目にいていた時代でした。隣の空家を利用して、ニワトリやうさぎ、ヤギを飼う家もありました。

昭和 24 年、滝見町の 31 棟、110 戸、栄町の 46 戸が道庁職員住宅に転用されます。毎日のように住宅の改装作業が続きました。白金町の長屋を買い取り、解体したときクギ抜きを手伝った記憶があります。解体材料で現在地に住宅を建て、転居しました。

従業員と家族の娯楽施設・協和会館では、毎週のように映画会が開かれたり、素人劇団の公演がありました。菅原都々子や美空ひばり（実は、美空ひばりと名乗るニセ者？）もきました。そこには、住民の喜怒哀楽がありました。

私にとっては、手稲鉱山は心のふるさとです。いまや、栄華を誇った地域をしのばせるものとして廃墟となった選鉱場の残骸を見ることができます。手稲山登山に利用される乙女の滝遊歩道沿いには社宅跡の土台がたくさん残されています。すっかりコケむしているものの、そこにはカエルやエゾサンショウウオが産卵しています。

これらを手稲の文化遺産として、あるいは産業遺産として、なんとか残すことができないものかと強く願っています」（一ノ宮）

～ ・ ～ ・ ～ ・ ～ ・ ～ ・ ～ ・ ～ ・ ～ ・ ～ ・ ～

現地調査「北家 光風館跡調査」のご案内

次の要領で、「北家 光風館跡調査」を行いますので、ご案内いたします。

1. 日時：7 月 19 日 午前 10 時～11 時 30 分
調査開始時間までに現地に集合してください。
2. 集合場所：菅野勉吉氏宅前（富丘 6-3-1-1 Tel：011-681-3125）
（国道 5 号線バス停「富丘」→富丘教会より山の方へ→富丘南公園→高速道路くぐって直進→左手山側の 祠 への入り口を見て右折→菅野氏宅）
3. 解説者：菅野博子氏（当館管理人）
4. 懇話会：調査終了後、場所を変えて昼食・調査に関する意見交換、質疑応答などの懇話会を行います。
場所は、富丘・西宮の沢連絡所 1 階大広間
時間は、12 時 30 分～14 時 30 分
5. お願い：調査地および懇話会場は駐車スペースがありませんので、公共の交通機関を利用して、ご参加をお願いします。

